

[概要]

本研究は、富山県高岡市の中心商店街を対象として、商店街の店舗構成の変容を明らかにするとともに、商店経営者の属性や経営意欲との関連性について検討することを目的とした。地方都市における中心商店街は、郊外型大型商業施設の立地拡大やモータリゼーションの進展を背景として、従来担ってきた商業的役割を大きく変化させてきた。高岡市中心商店街においても、業種構成や店舗の存続状況には大きな変化が見られ、買回品を扱う小売店の減少と、飲食業・サービス業の増加が進行していることが確認された。また、店舗の入れ替わりが頻繁に生じており、商店街が動的な商業空間として再編されつつある実態が明らかとなった。さらに、商店経営者への聞き取り調査を通じて、業種や年齢、事業段階といった属性によって経営意欲や商店街との関わり方に大きな差が見られることが明らかとなった。特に、新規参入の飲食店では比較的高い経営意欲が見られる一方、長期営業の小売店では高齢化や後継者不足を背景に経営意欲の低下が顕著であった。これらの結果から、高岡市中心商店街の変容は、外的な商業環境の変化と経営者のライフステージの変化とが相互に作用した過程として理解できることが示された。広域型商店街から地域型商店街へ構造転換したことから、地域に根差した活性化事業など政策転換の緻密な検証、外的・内的要因を統合した商店街変容モデルの構築が必要となる。

キーワード：中心商店街，店舗構成，地域社会，経営意欲，高岡市